

霞ヶ関北地区福祉プラン

霞ヶ関北地区は市の西部に位置し、西は小畔川・東は入間川に囲まれた地域です。東武東上線霞ヶ関駅を中心に、角栄団地・東急ニュータウン団地等の宅地造成により、急激に人口が増加し、昭和43年に霞ヶ関支会と名細支会の一部を分割・統合し、霞ヶ関北支会を設立しました。また、平成2年以降日本油脂株式会社（現在の日油株式会社）工場跡地に住宅地が造成され、伊勢原町が誕生しました。

目標1 高齢者の見守り活動の推進

○高齢者の見守り活動に取り組もう

 地域の中であいさつや声かけ運動を進めます。

- ①希薄になりがちな隣近所のあいさつや声かけを励行し、高齢者の安否を確かめます。
- ②見守り活動を推進するため、民生委員・児童委員と自治会が情報を共有化することにより、更に効果を高めます。
- ③「ふれあい相談員」の育成を図ります。
- ④「霞北（かほく）お手伝いサービス」の充実を図り、高齢者の生活サービス活用・拡大を図ります。
- ⑤健康づくりとして開催している「体操教室」への参加の声かけを進めます。

目標2 地域交流の場を広げよう

○高齢者が心豊かな生活を継続できるように支えよう

 各世代間と一緒に活動できるように誘い合いましょう。

- ①ふれあいの場を増やすために、自治会活動に参加します。
- ②高齢者の集いに幼児や子どもたちも参加し、ふれあいを楽しみます。
- ③学校と連携し、運動会や文化祭等の行事に参加します。
- ④自治会館を活用し、趣味の場を広げます。
- ⑤おしゃべり会やふれあいのサロンを開設し、交流の場を増やします。
- ⑥防災・防犯について講演会を開催し、自助・共助を進めます。
- ⑦健康づくりとして開催している「体操教室」への参加の声かけを進めます。

■人口	17,531人
■世帯数	7,773世帯
■65歳以上の割合	32.1%
■15歳～64歳の割合	58.6%
■0歳～14歳の割合	9.3%
■自治会数	14

※平成28年1月1日現在



目標3 自主防災・防犯体制の充実

○不測の災害や犯罪に備え、地域の安全を常に考えよう

 安全・安心な生活を守るため、協力体制をつくろう

- ①各自治会の自主防犯組織の点検見直しや、会議等の定例化を進め、文書化して残すなど、常に活動の充実を図ります。
- ②災害時に、要支援者の安全を確保するため、マニュアル化を進めます。
- ③災害時に、要支援者以外の住民についても見逃しのないように、声かけ等の取組を行います。
- ④災害時の避難体制づくりのため、年に1回は、全体避難訓練を行います。
- ⑤地区内での犯罪を防止するため、各自治会防犯推進員とボランティアグループとの連携を進め、定期パトロールを進めます。（青パトの活用も併せる。）

（平成27年度策定）